

財団奨学生 イギリス留学中間報告 3

グローバル補助金奨学生 片岡 舞
マンチェスター大学大学院
国際開発学：貧困、紛争、再構築コース

イギリス、マンチェスター大学の修士課程に留学中の片岡舞です。2セメスターも終わりが近づいてきました。先月行ったウガンダへのフィールドワークを中心に今セメスターの報告をいたします。

➤ 2セメスター

今セメスターは下記の4つの授業を履修しています。今セメスターでは、自分が最も関心のある紛争に関連する授業が多いため、毎日楽しく講義を受けています。

開発研究	開発における研究手法を習得します。
開発と再構築	紛争や災害後の社会の復興について学びます。
暴力と再構築の人類学	暴力と日常生活の関連性について考えます。
フィールドワーク	ウガンダへ渡航し、フィールド経験を積みます。

➤ フィールドワーク

今年3月から約2週間、授業の一環としてウガンダでフィールド調査を実施しました。貧困、紛争、再構築を専攻する私のコースは、長い間、「神の抵抗軍」と名乗る反政府勢力とウガンダ政府の紛争が続いた北部のグルという町を訪れました。コースメイトはそれぞれ自分の研究テーマを設定し、私は元兵士の社会復帰における伝統的和解メカニズムの利用について研究しました。北部ウガンダの紛争では、子どもを含む5万人以上の人々が反政府勢力によって誘拐され、兵士や性奴隷として利用されてきた背景があります。紛争自体は2006年頃から終戦に向かったものの、こうした元兵士とコミュニティの和解や、武器を捨て、仕事を見つけて社会に復帰することなど様々な課題があります。特に誘拐された元兵士は強制的に戦いに参



コースメイトとの集合写真

戦いに参

加させられた紛争の被害者でもあり、実際にコミュニティのメンバーの殺害に加担した加害者でもあります。故に元兵士とコミュニティの和解は非常に複雑な問題であります。



元子ども兵の女性グループ

約2週間で様々な人や組織を訪問しましたが、今回は印象的だったものをいくつか取り上げたいと思います。まずは、北部ウガンダに伝わる伝統的儀式を使って元兵士の和解を促す **Justice and Reconciliation Project** という団体の事務所を訪れました。そこでは、12歳のときに誘拐され、神の抵抗軍のリーダーで、国際裁判所からも逮捕状の出ているジョセフ・コニーの性奴隷として仕え、彼との子どもを3人持つアモニー・イヴリンという女性と話すことができました。(約10年以上反政府勢力に捕われた彼女のエピソードは本にまとめられていますので、興味がある方は次のサイトをご覧ください。 <http://uwpres.wisc.edu/books/5290.htm>) その後、彼女は町から少し離

れた場所で彼女と同様に、神の抵抗軍に誘拐されていた女性のグループに案内していただきました。女性たちは私が想像もできないような過酷な環境に長い間置かれていたにも関わらず、お互いに協力しながら生き生きと生活していました。しかし、いまだに紛争の影響が残る部分も多くみられました。なかでも、土地問題は彼らにとって深刻なようで、様々な質問の中でも最も強い反応がみられました。

後半では、グルからキリヤンドンゴというエリアに移動し、まだ情勢が不安定な隣国の南スーダンやブルンジの人々の難民キャンプを訪れました。避難民向けの保健センターを見学し、実際に避難民の人々と話してみると、キャンプの中では平和に暮らせているようでした。しかし、難民とキャンプ外のコミュニティの間には壁があり、町で仕事を探すことは非常に難しく、援助機関の支援なしでは生計を立てられない状況にありました。さらに、避難キャ

ンプの近くには、北部紛争から逃れてきた国内避難民が住む区域がありました。そこには、紛争で夫を失くした女性のグループが協力しながら生計を立てていました。紛争から約10年ほど経過しているにも関わらず、故郷に戻るできない理由は、土地問題にありました。紛争期間中、政府は北部の住民を強制的に避難キャンプに移動させました。10年、15年と避難をしていた彼らが元の家に戻った頃には、新しい人々が土地を使用していました。北部ウガンダではほとんどの土地が慣習法によって管理されており、正式な登録や所有を示す術がありません。こうした一連の体験から最も強く感じたのは、当事国から離れた国で理論を勉強することで知識はつくけれど、必ずしもそれらが現地のニーズを反映しているとは限らないということです。特に学術研究のテーマ設定は、現地の人にとってそのトピックが最も重要で切迫したものであるかどうかよりも、研究者の興味関心によるところも大きいと思います。そのため、理論や知識を現実社会で生かすためにも、現地のニーズに合ったテーマ設定をしていきたいと思いました。



国内避難民の未亡人の女性グループ

今後の展望ですが、これから課題で忙しくなり、5月中には大学院での授業はすべて終了します。8月末の修士論文提出まで孤独な戦いになりそうですが、うまく息抜きしてやっていきたいと思っています。課題が落ち着いたらまたご報告させていただきます。